

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司後援会
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203

おぎはら健司の市政レポート

『平成25年第二回定例会閉会』

本日6月24日にて、平成25年第二回定例会が閉会を致します。前号でもお伝えしたとおり、この定例会に於いて注目された議案は、病院誘致に関する選考委員会の設置についての条例案で、病院公募は今週末（28日）締め切りです。

行政当局の話によれば、複数の事業者が真剣に検討されているとの事で、8月中旬にはどの医療法人になるのかが分かるそうですから、まずはその結果を待ちたいと思います。

一般質問にて福祉政策を問う！

今回の定例会では、保育行政 生活保護の二点について一般質問を行いました。

保育行政では、以前から提案をしていた「民間保育園の保育士の処遇改善」の予算が実現し、その実効性についての確認と、待機児童解消に向けた公立保育園民営化への更なる推進等具体的取り組みについて質問をしました。

座間市の公立保育園では、一歳児を担当する保育士の配置基準を労働組合との協定により児童5人を保育士1名で対応とされていますが、民間保育園同様に国や県が定める配置基準（6人：1人）に準ずれば、9園ある公立保育園でそれぞれ1人ずつ多く預かって頂ける事になり、今年度当初の一歳児の待機児童数13人を4人にまで減らせる計算になります。

もちろん、様々な事情がある事は推察しますが、民間保育園で出来ている事を「質が高い」と言われる座間市の公立保育園の職員の皆様に出来ないはずはなく、そのご努力に期待をしたいと思いますし、もし見直しが難しいのであれば、民営化を更に推進する事で、待機児童解消実現を急ぐべきとの提案を致しました。

なお、先ごろ発表された座間市保育園整備計画では、9園ある公立保育園のうち4園の民営化を、この先10年間で進めるとされています。

生活保護制度については、国会で生活保護法の改正に向けた審議が行われておりますが、本

来であれば国が行うべき事務を、法定受託事務として国に代わって市が担当しているのですから、その費用については国が100%（現在は75%）負担すべきであり、市長会として国に対して申し入れをすべきとの提案をさせていただきました。座間市では、生活保護関連の予算は今年度ついに40億円を突破しましたが、町づくりや道路整備といった重要な施策に影響が出ないよう提案をして参りたいと思います。

また、不正受給防止のための臨時職員として、警察官OB等専門知識のある方を雇用し、配置すべきとの提案もさせていただきました。

歯科医師会のお取組みに敬服！



先日、市議候補として推薦を頂くなど、親しくさせて頂いている歯科医師会主催の「歯科衛生週間」に参加しました。

今年で5回目との事で、障がいを持ったお子さんとご家族の相談を受け付けるほか、お子さんにフッ

素塗布を行ったり、歯科検診の大切さをご理解頂くための催しが行われました。

なるほど！と思わされたのが、障がいを持ったお子さんの治療へのきめ細かいご配慮でした。写真にもある通り、お子さんに安心感を与えるために「アンパンマン」のエプロンを着用したり、検診を終えた子どもが貰えるおもちゃを多数用意するなど、それらを含めて行事の全てが歯科医師会の皆さんによるボランティアで行われているとの事で、敬服するばかりでした。

また、避難所等でも本格的な歯の治療を行える診察台やレントゲン設備なども歯科医師会の皆さんの出資により所有されているとの事でしたので、座間市と歯科医師会の防災協定の締結に向け、パイプ役を務めてまいります。